



日刊工業新聞社社長 井水 治博

平成30年度「環境賞」を受賞された皆さま、誠にありがとうございます。本賞は、鋼製橋梁の鉛・ポリイソブレンを除去する技術を開発された、環境問題の解決を両立させる牽引車となつていただいております。また、鋼製橋梁の鉛・ポリイソブレンを除去する技術を開発された、環境問題の解決を両立させる牽引車となつていただいております。また、鋼製橋梁の鉛・ポリイソブレンを除去する技術を開発された、環境問題の解決を両立させる牽引車となつていただいております。

平成30年度「環境賞」を受賞された皆さま、誠にありがとうございます。本賞は、鋼製橋梁の鉛・ポリイソブレンを除去する技術を開発された、環境問題の解決を両立させる牽引車となつていただいております。また、鋼製橋梁の鉛・ポリイソブレンを除去する技術を開発された、環境問題の解決を両立させる牽引車となつていただいております。また、鋼製橋梁の鉛・ポリイソブレンを除去する技術を開発された、環境問題の解決を両立させる牽引車となつていただいております。

国立環境研究所 理事長 渡辺 知保

平成30年度「環境賞」 創設から45回を数える39件の応募があつた。厳正な審査の結果、鋼製橋梁の古い塗料、廃熱利用、温暖化対策、再生可能エネルギー、自然保護活動と、安全に除去するヤマダイテクノのフエニール(PCR)を除去する技術を開発した伊藤忠環境副社長が受賞した。

環境対策が新しい経済成長に



平成30年度 環境賞贈賞式 主催：国立環境研究所、日刊工業新聞社 後援：環境省

国際展開にも配慮し評価 審査委員は大塚柳太郎氏。審査委員会は39件の応募について、「環境保全への貢献」「獨創性」「将来性」「有効性」「経済性」ともに優れたヤマダイテクノのフエニール(PCR)を除去する技術を開発した伊藤忠環境副社長が受賞した。

Table listing the members of the 'Environment Award' review committee, including names and titles of members from various institutions.

廃タイヤ等の異素材混合物を削ぎ取る破碎・分離技術 エムダイヤ 優良賞 異素材や複合素材の産業廃棄物を破碎・分離するには、破碎機を何台も連結させて、破碎・分離を繰り返すのが一般的な方法だったが、初期投資と運転費用の負担が大きかった。同社は、破碎と分離を1台の機械で可能にすれば、リサイクル関連業者が、より導入しやすくなり、再資源化の促進につながり、地球環境にも貢献できると考えた。そこで自社の技術力を結集し、「エコセパレ」を開発した。特筆すべきは、破碎と分離を1台の機械で可能にした点にある。

日刊工業新聞 THE NIKKAN KOGYO SHIMBUN 新聞 6月25日 月曜日 2018年(平成30年)